

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成

－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －

2. 研究の目的

社会で看護師として働く為には、基礎学力、専門知識技術とそれらをうまく活用し、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要的な基礎的な能力の「社会人基礎力」を育成していくことが必要である。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていくものである。5年一貫の看護教育を通して、高校生が主体的に学び、専門性と社会性を身に付け、人間として成長できるよう支援するプログラムを開発する。

3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

地域社会に貢献できる看護師とは、「社会人基礎力」が備わった状態と考える。経済産業省の「社会人基礎力」は、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の3つの能力（12の能力要素）から構成されている。本校では、倫理性を加えた13の能力要素の育成を目指す。

この「社会人基礎力」を育成するために、高校課程では「豊かな人間性」と「課題解決能力」の育成を、そして、専攻科ではそれらの能力を活用し継続して健康教育を行うことを通して、地域の健康の保持増進に寄与する能力と態度「社会参画力」を育成する。5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポートするため、社会人基礎力が備わるための取組みを実施し、評価・修正しながら研究をすすめる。

－育成する人材像／目標－

- 1) 多様性を尊重し、主体的に周囲と協力しながら目標達成のために行動できる能力を育成する。
- 2) 主体的・対話的で深い学びにより課題解決につながる思考力と実践力を育成する。
- 3) 地域住民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育成する。

豊かな人間性

看護師は、多様な価値観を持った対象者に対応するために、豊かな感性と看護観を持ち、対象に関心を寄せ、積極的に関わる能力が必要である。チーム医療の中でも中心となる看護師は、チームで協力する、チームに働きかける力が必要となる。他者を尊重しながらも目標達成のために行動できる人材の育成をねらいとする。また、立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生・異学年との交流や活動を通し、倫理観とともに文化や価値観等の多様性を理解し尊重できる豊かな人間性を養うことをねらいとする。

<活動の概要>

a. 異学年交流（1～5年）

- ① 1～3年縦割りグループによるグループ活動（3学年、または2学年で行う）
- ② ナイチンゲール生誕祭
- ③ 1年生が臨地実習前に3年生と交流
- ④ 1年生が5年生の指導を受け1年他クラスへ手洗い指導実施
- ⑤ 2年生がAPU訪問交流の内容を5年生に報告交流

上記の活動を通し、リーダーシップやメンバーシップを育成する。活動を通して、自己の目標や果たすべき役割を理解し、チームに働きかけ実行力を高めていく。また、看護師を目指す自分を振り返り、意識を再確認し高める機会とする。

b. APU国際学生との交流（2年）

APU訪問やAPU国際学生を本校に招待し交流することを通し、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生に対して、出来るだけ英語でコミュニケーションを図ることに挑戦させたい。そして、積極的に相手を知ろうとする努力や自分を知ってもらうための工夫ができることを期待する。学生の英語によるコミュニケーション能力を向上させるために、英語科教諭に協力を求め取り組んでいく。交流後は、グループ毎に交流の様子や感想を模造紙・スライドにまとめ、国際看護を学ぶ5年生に発表し、学びを共有する。学校に招いた際は校内見学、看護の体験をしてもらい、専門教科の実施の自信につなげるとともに、英語で話すことにチャレンジして身振り手振りなど非言語的コミュニケーションも体験し、コミュニケーション能力向上のきっかけになることを期待する。

<活動のねらい>

	異学年交流	国際学生との交流
1年	上級生との交流で不安や疑問を質問し、学科の学習への取り組み方法を見出す。相手の意見を丁寧に聴く力及び自分の考えを相手に伝える力を育てる。	
2年	他者を尊重することの大切さや、自分の考えをわかりやすく他者に伝える力を育てる。他者理解に努め、他者との関わりを通して、自己の振り返りを行い、自己理解を深める。	APU国際学生と交流を図り、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生の多様な価値観を知り、他者理解に努める。交流した学生の国の医療を調べ学びを深める。交流準備や交流当日、交流後のまとめはチームで協力して

		行う。
3年	基礎課程の最高学年としてリーダーシップをとり、グループ活動を進めることができる。後輩の姿から自己を振り返り、目標の再確認ができる。	
5年	最高学年として、リーダーシップを発揮し、下級生に対してモデル行動を示すことができる。	A P U交流での学びを聞き、多様な文化や価値観を知り、他者を尊重し相手の立場にたった行動ができる。

課題解決能力

主体的・対話的で深い学びの視点で協同学習やICT活用等、様々な技法を用いて活動性の高い授業になるよう授業改善に取り組んだ。今年度は、さらに学習内容を深め、能動的（アクティブ）に学び続けられるような授業を工夫改善した取組を行う。

また、協同学習を通して互いに対話をしてやりとりをすることで多様な情報を取り入れ、自分の考えをより確かなものにする事が出来る。対話的な学びが行われることで主体的に学びに向かう姿が生まれてくる。よって、高校1年生が協同学習の講義を受けて仲間と共に伸びる、高め合う協同学習について学び、思考力や判断力、表現力を身につけて自らの課題をみつけ課題を解決する力につながることを目指す。さらに教員は、ICT活用についてスキルを磨き、協同学習について理解を深めていく。

<活動の概要>

a. 主体的・対話的で深い学び

①主体的・対話的な学習活動 *協同学習やICTを活用した授業の実施

②講義および教員研修

5月 1年生：「仲間と共に伸びる学び方」安永 悟先生

7月23日 研究授業および教員研修（安永先生授業参観後講評、研修）

b. 特別講義

実習病院や地域で活躍している看護専門職から講義を受けて、専門的な知識・技術を身につける。

また、看護の関心を高めて自己の目標を確認することをねらいとする。

1年① 7月 5日 看護専門職の話を聴く会（保健師・助産師・看護師）

②10月23日 感染管理認定看護師による特別講義

「感染予防について～正しく覚えて実践しよう～」

2年 9月 4日 皮膚・排泄ケア認定看護師による特別講義

「皮膚の構造・機能をふまえた清潔援助、清潔ケア」

3年 9月20日 摂食・嚥下障害看護認定看護師による特別講義

「食事介助や口腔ケアの援助について」

<活動のねらい>

	主体的・対話的で深い学び	特別講義
1年	<p>主体的に授業に取り組み、看護を学ぶ楽しさを体験する。演習でタブレットを活用し撮影した内容を視聴して自身の実技を振り返る。</p> <p>協同学習について研修を受け、協同精神のもとお互いに学び高め合いながら、仲間とともに学ぶ内容の理解と習得を目指して、思考力や表現力を身につける。</p>	<p>看護専門職の話を聴く会</p> <p>地域で活躍している専門職から話を聞き、看護への関心を高め、自己の目標を明確にする。</p> <p>感染管理（標準予防策、手指消毒法）</p> <p>感染管理認定看護師より、皮膚の生理機能をふまえた清潔援助について学ぶ。手洗い評価キットを活用して手洗いの方法を見直す。</p>
2年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み、演習を行う。演習でタブレットを活用し撮影した内容を視聴して実技を振り返る。</p> <p>また、グループ活動を通して気づきを共有し、自己の課題をみつけ学びを深める。</p>	<p>皮膚・排泄ケア</p> <p>皮膚・排泄ケア認定看護師より、皮膚の生理機能をふまえた清潔援助について学び、理解を深める。その後の臨地実習で行う清潔ケア（清拭・足浴・手浴）につなげる。</p>
3年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み、演習を行う。演習でタブレットを活用し撮影した内容を視聴して実技を振り返る。また、グループ活動で自己の課題を知り、課題解決に向けた取り組みを行うことができる。</p> <p>さらに、事例を通して状況に合った援助を考え、お互いに学びを共有しあい思考力や判断力、表現力を身につける。</p>	<p>摂食・嚥下障害看護</p> <p>摂食・嚥下障害看護認定看護師より、摂食・嚥下機能について学び、理解を深める。</p> <p>その後の臨地実習で講義内容を活かした食事の援助や口腔ケアにつなげる。</p>

社会参画力

4年生は、「健康ひた21」について学習するだけでなく、保健所や日田市役所に依頼し、大分県や学校所在地である日田市の現状や取組について講義を受け学習している。平成27年3月報告の「健康ひた21」によると、高齢期における重点項目3項目は、平成19年と比較すると全て悪化傾向となっている。そのため日田市は、運動推進と食生活の改善に力を入れている。

重点項目	目 標	比 較
栄養・食生活	おいしく楽しく食事ができ、偏らない食生活ができる	悪化傾向
運動・身体活動	日頃から意識して体を動かすことができる	悪化傾向
こころの健康	趣味や楽しみを持ち、自分の役割や楽しみの再発見ができる	悪化傾向

*引用文献：大分県日田市 健康ひた21計画（平成27年～31年）

そこで、平成28年度より、4・5年生は、「健康ひた21」を推進するために運動推進活動や健康教育に取り組んでいる。また、最新の運動に関するデータとして、平成29年3月報告の「県民健康意識行動調査報告書」がある。運動について、「定期的な運動をしていない」と回答した人は次の通りである。

*日田市および近隣の玖珠町・九重町のみ抜粋

年齢3区分 性別	全年齢			20～39才			40～64才			65才以上		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
全県(標本数)	11,822	5,583	6,239	2,707	1,181	1,526	4,480	2,035	2,445	4,635	2,367	2,268
(割合)	62.9	58.4	66.8	70.5	60.3	81.0	68.0	66.3	69.5	52.5	47.1	56.3
日田市	68.2	65.0	71.0	72.4	69.8	74.9	75.7	71.0	80.3	58.3	54.3	61.1
九重町	63.0	65.6	60.8	68.7	60.2	77.7	76.2	79.1	73.2	50.7	55.4	47.3
玖珠町	65.2	61.9	68.1	73.5	65.7	82.8	67.1	65.7	68.5	59.1	55.4	61.7

また、疾患別の死亡も次の様な特徴があった。

- ・日田市は、脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患の死亡率（脳血管疾患 120.2、慢性閉塞性肺疾患 156.4）が全国よりも高くなっている。
- ・九重町は、急性心筋梗塞の死亡率（177.1）が全国よりも高くなっている。
- ・玖珠町は、急性心筋梗塞、脳血管疾患、乳がんの死亡率（急性心筋梗塞 171.8、脳血管疾患 126.7、乳がん 180.9）が全国よりも高くなっている。

*引用文献：平成29年3月大分県「県民健康意識行動調査報告書」

適度な運動は、生活習慣病の予防やストレス解消に有効である。今年度も、継続して学生なりに住民の運動習慣の改善活動を行う。この活動によって、普段生活する地域に関心を寄せ住民の健康の保持増進に努める社会参画力を育む。また、この活動は、4～5人のグループで約半年間取り組む。長期間におよぶ活動を通して、社会人基礎力のチームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）が高まることを目指す。

<活動の概要>

a. プレゼンテーション講座（5年：5月8日・4年：9月4日）

外部講師を招き、住民に対して発表や健康教育を行う4年生および5年生を対象に効果的なプレゼンテーション技術を学習する。

b. 4年生運動推進活動

昨年に続き特に住民の運動について改善するきっかけ作りになることを目指し、スロージョギング等の運動推進を行う。今回は、地域の住民（運動リーダーや自治会等）と一緒に考えて、学生が企画運営する「ウォーキング&スロージョギング教室」を計画した。

①運動に関する講演及び実技指導

②ウォーキング&スロージョギング教室：10月11日 … 新規

③まとめの発表会：11月15日

c. 5年生健康教育

臨地実習／日田市役所・教育学演習／咸宜大学（日田市高齢者教室）・近隣寺院・日田市民健康福祉まつりにおいて、健康教育を行なう。対象者から内容の希望がなければ、健康ひた21の高齢期の重点項目である「食」「運動」「こころの健康」に関する内容で実施する。また、昨年制作した日田弁版ラジオ体操も活用して健康教育を行う。

<活動のねらい>

	プレゼンテーション講座	4年生運動推進活動、5年生健康教育
4年	対象者の興味をひく発表方法を知り、実践する。	授業を通して、健康ひた21の取組および日田市の現状を知る。(地域への関心を高める) そして、グループごとにコース紹介や運動をすすめる動画を制作し、住民に対して発表する。(発表会) 動画制作・教室の企画・発表会等、約半年間継続して取り組むことで、グループ内あるいは教員住民に対する発信力・傾聴力を高め、途中意見の相違があってもストレスを乗り越え、状況を判断し、柔軟的に対応して取り組むことを目指す。
5年		半年間の各論実習期間中、グループごとに2～3回健康教育を実施する。健康教育の準備から実施までの活動を通して、グループ内あるいは指導者および教員、参加者に対する発信力・傾聴力を高め、途中意見の相違があってもストレスを乗り越え、状況を判断し、柔軟的に対応して取り組むことを目指す。

評 価

(1) 習得させたい能力と学年別目標

豊かな人間性				
多様性を尊重し、主体的に周囲と協力しながら目標達成のために行動できる能力を育成する。				
	主体性 物事に進んで取り組む力	働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力	実行力 目的を設定し確実に実行する力	倫理性 相手の立場に立って対象に不利益や苦痛が生じない様に自己批判も繰り返しながら行動することができる力
3年	3学年縦割り活動の中でリーダーシップをとることができる。失敗を恐れず計画を立て、率先して実行する。	3学年縦割り活動の中で下級生、班員の意見にも耳を傾け、皆が参加できるように調整する。	3学年縦割り活動の中で、目標を踏まえ、班員と協力し活発な意見が出るように会を実施する。	基礎課程最高学年として相手の立場を尊重した態度を心がける。

2年	APU国際学生と積極的に話し、日本以外の国の文化の違いやその国の医療について知る。	班での調べ学習や、発表に向けて班で協力して行うことができる。 失敗を恐れず英会話に挑戦する。	交流会で英語を話すことに挑戦し、非言語的手段でもより多くの情報を得る努力をする。交流会の活動目標を設定し達成する。	相手の言う内容をよく聞き、理解しようと努める。 食や文化の違いも理解する。
1年	異学年交流の中でわからないことや心配な事を上級生に質問したり相談する。	手洗い指導の準備から実施まで班員各自が互いに協力し合う。対象者に手洗いをアピールし実行してもらう。	対象に対して堂々とメンバーが協力して落ち着いて効果的な手洗い方法を発表する。	対象者を不快にする態度に注意し、他クラス生徒の反応などを見ながら、説明を行う。

課題解決能力

主体的・対話的で深い学びにより課題解決につながる思考力と実践力を育成する。

	課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	創造力 新しい価値を生み出す力
3年	・自己の課題をみつけ、その課題を解決しようとする行動がとれる。	・1年間の学習計画を立て、進級に向けた学習の取り組みができる。	・主体的に授業に参加して、自分の考えや意見を他者に説明できる。他者と意見交換して討議することができる。
2年	・自己を振り返り、自分の不足しているところに気づき、課題をみつける。	・主体的に事前学習に取り組み、授業に参加する。	・他者の意見を聞き（傾聴）、自分の考えを他者に伝える（発表）ことができる。仲間と協力して話し合うことができる。
1年	・分からないところを見つけ、他者に伝えることができる。	・事前学習・予習の必要性が分かり、授業に参加する。	・意欲的に授業に参加して、「楽しい」や「分かった」と感じ、看護に興味をもつことができる。

社会参画力

地域住民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育成する。

	発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力	傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力	柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力
5年	・時（タイミング）・場・人に柔軟的に合わせて発言する。	・カンファレンスで指導者やグループメンバーの意見・助言を最後までしっかり聞くことができる。	・状況を把握し、柔軟に行動する。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバーとの話し合いやグループ学習において、積極的に意見を述べる。 ・相手の真意を考えていったん受け止めた上で、自分の考えや気持ちが伝わる様に話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相づちや質問、共感等により、相手が話しやすい状況を作る。 ・内容の確認や質問しながら、相手の意見を正確に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を考え、相手の気持ちになって理解する。 ・周囲の意見や助言を受け止め、納得した上で自分の考えや内容を変更していくことができる。
----	--	---	--

	状況把握力 自分と周囲の人々や物事との 関係性を理解する力	規律性 社会のルールや人との約束 を守る力	ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する 力
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中、自分の置かれていた状況や期待される役割を理解して行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲と協調し、責任ある行動をとる。 ・実習生としての服装や言葉遣い、規則の遵守、対象者との約束を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中のストレスについて、自分の成長につながるものにとらえ、最後まで投げ出さずに取り組む。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動において、自分と他者の役割を理解して行動する。 ・周囲の人の状況に配慮して、良い方向に向かうよう行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに迷惑をかけない様にルールや約束を守って行動する。 ・改善のための努力を行い、同じ失敗を繰り返さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中のストレスについて、周囲の人に支援を求めることができる。そして、最後まで活動に取り組む。

(2) 評価方法及び達成基準

習得させたい能力	評価方法	達成基準
豊かな人間性	主体性 <事業> 3学年縦割り活動、1年手洗い指導、APU国際学生との交流会、ナイチンゲール生誕祭 <評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。 教員、他クラス生徒に同様のアンケート調査し他者評価を行う。	主体性に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。 感想の中に「積極的にかかわれた」「自分から～した」等の記述がある。 他者評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が70%以上となる。
	働きかけ力 <事業> 3学年縦割り活動、1年手洗い指導5年生助言による、APU国際学生との交流会 <評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。教員に同様のアンケート調査をし他者評価を行う。	働きかけ力に関する4段階の自己評価で、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。手洗い指導、APUについては事前準備からについても問う。 感想の中に「協力して行った」「人の意見を聞いて修正した」等の記述がある。 他者評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が70%以上となる。

	<p>実行力</p>	<p><事業> 3学年縦割り活動、A P U国際学生との交流会 1年生手洗い指導</p> <p><評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。教員に同様のアンケート調査し他者評価を行う。</p>	<p>実行力に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>他者評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が70%以上となる。</p>
	<p>倫理性</p>	<p><事業> A P U国際学生との交流会、ナイチンゲール生誕祭、1年生手洗い指導</p> <p><評価方法> 4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。教員に同様のアンケート調査し他者評価を行う。</p>	<p>他者理解、自身の振り返りや班行動に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>他者評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が70%以上となる。</p>
<p>課題 解決 能力</p>	<p>課題発見力 計画力 創造力</p>	<p><事業> 主体的・対話的で深い学び、研修、特別講義</p> <p><評価方法></p> <p>①授業アンケート（課題発見力、計画力、創造力）を1・2学期に調査して比較する。 （4年は授業開始前・終了時に調査）</p> <p>②協同認識尺度調査をして、協同における認識の変化を確認する。（1～5年）</p> <p>③特別講義・研修終了後にアンケート調査（自己評価）を実施する。また、自由記述より学びや理解度を評価する。 2・3年生は、臨地実習終了後に学習内容の実践状況を調査する。</p> <p>④生徒・学生の変化について、教員による他者評価をする。</p>	<p>①生徒・学生、教員による授業後の評価を4段階で評価して、課題発見力・計画力・創造力についての項目が、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>②特別講義の理解度および課題発見力・計画力・創造力についての項目が、4段階評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。その後、臨地実習において、学習内容の実践状況を確認して、具体的な内容を明らかにする。</p> <p>③研修後の評価で主体性・協調性についての項目が、4段階評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。記述で「協同学習の必要性」、「自分で考え（思考力）、他者に伝える（表現力）大切さ」等を記入した内容が7割以上となる。</p>

<p>社会 参画 力</p>	<p>発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力</p>	<p><事業> プレゼンテーション講座、4年生運動推進活動、5年生健康教育</p> <p><評価方法> ①プレゼンテーション講座終了後、目的および満足度についてアンケート調査(自己評価)する。 ②4年生運動推進活動や5年生健康教育の準備から発表当日までの発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力についてアンケート調査(自己評価)する。 ③発表を聞いた対象者に対して、発信力を含めた態度や内容についてアンケート調査(他者評価)する。 ④発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力の学年目標についてアンケート調査(自己評価)する。</p>	<p>①学年目標の達成度・運動推進活動や健康教育の自己評価表において、発信力・傾聴性・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力の項目について、5(十分できた)・4(だいたいできた)を選択した割合が70%以上となる。</p> <p>②健康教育の他者評価の発信力の項目について、5(十分できた)・4(だいたいできた)を選択した割合が70%以上となる。</p>
------------------------	--	--	--

*** 全体評価**

全体的な事業成果は、以下の調査結果で評価する。

- ①文部科学省より提示された「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業における共通的な評価指標 … 1月に調査予定
- ②在校生の社会人基礎力調査
社会人基礎力能力要素の自己評価 … 5月・12月、2回
- ③卒業生の社会人基礎力調査(平成30年3月卒業者)
社会人基礎力の能力要素について、自己評価と他者評価(管理者) … 11月に調査予定

5. 実施体制

<研究内容番号>

1. 豊かな人間性	①異学年交流（縦割り班活動、ナイチンゲール生誕祭）
	②APU国際学生との交流
2. 課題解決能力	①主体的・対話的で深い学び
	②特別講義（専門職の話を聴く会、認定看護師による講義）
3. 社会参画力	①プレゼンテーション講座
	②運動推進活動
	③健康教育

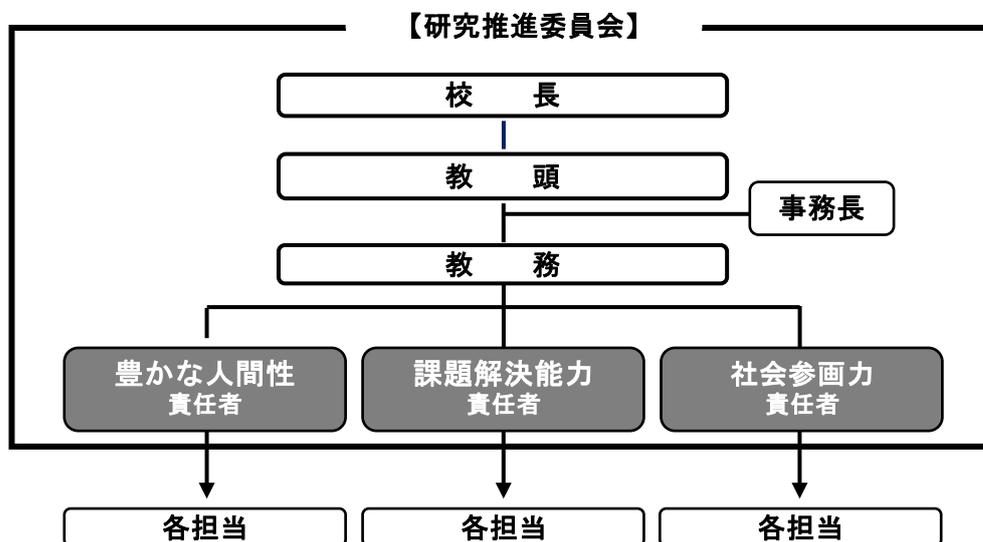
(1) 研究担当者

氏名	職名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
石井 裕子	教頭	看護、全研究項目の把握・確認
佐竹 小桐	教諭	看護、1. 豊かな人間性班責任者、3年副担任
松井 由美	教諭	看護、2. 課題解決能力班責任者、1年担任
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会参画力班責任者、各班統括
武内 恵子	基礎課程主任	看護、1年副担任、2
草野 浩輔	理事長補佐	地歴公民、1年担任、1
深見 知南	教諭	国語、2年担任、1
高倉 敏之	助教諭	看護、2年担任、1
春末 聡	教諭	宗教・国語、3年担任、3
田代 あさみ	教諭	看護、3年担任、3
森 良子	助教諭	看護、4年担当、3
五島 忍	教諭	看護、4年担当、2
武石 千鶴	教諭	看護、5年担当、2
大鶴 翔太郎	助教諭	看護、5年担当、3
竹井 日登美	教諭	看護、5年担当、1
吉田 太郎	教科主任	国語、2年普通科担任、2
池田 恭平	教科主任	地歴公民、2年普通科担任、2
棕園 亨	教科主任	数学、生徒指導主任、2
田邊 葉子	教科主任	英語、1年副担任、2
五島 英司	教科主任	理科、3年普通科副担任、2
宇野 真悟	教科主任	情報、1年普通科担任、3
穴井 征樹	事務	高校事務、経理事務
尾関 紀穂	事務	専門課程事務、経理事務

(2) 研究推進委員会

氏名	職名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
岡崎 浩晴	校長	SPH事業を総括
吉住 和恵	教頭	理科、校長の補佐
石井 裕子	専攻科教頭	看護、全研究項目の把握・確認
相良 明弘	事務長	経理事務の責任者
草野 浩輔	理事長補佐	地歴公民、広報
長木 武士	教務主任	理科、2
五島 英司	特別活動主任	理科、青少年赤十字顧問、2
平 善浩	キャリアガイダンス主任	国語、3
春末 聡	庶務主任	宗教・国語、3年担任、3
日野 浩太郎	広報主任	福祉、記録・広報
齋藤 貴志	1学年主任	地歴公民、1
立花 圭	2学年主任	英語、1
石橋 健一郎	3学年主任	英語、1
佐竹 小桐	教諭	看護、1. 豊かな人間性班責任者
松井 由美	教諭	看護、2. 課題解決能力班責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会参画力班責任者、各班統括

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容		実施時期										
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
豊かな人間性	1年	ナイチンゲール生誕祭	縦割り班活動		異学年交流 実習について				縦割り班活動	異学年交流 手洗い指導		
	2年			大学連携 APU交流		大学連携 APU交流	異学年交流 APU 5年に発表					
	3年			異学年交流 実習について								
	4年											
	5年						異学年交流 2年発表聴講 1年指導					
課題解決能力	全学年	主体的・対話的で深い学び										
	1年	大学連携 協同学習		病院連携 専門職の話			病院連携 感染管理・演習			地域・実習施設と連携 1年9月老人福祉施設実習 2年10月病院実習 3年6月こども園実習 7～8月病院実習 11月老人福祉施設実習 4年2月病院実習 5年6～11月 病院実習 訪問看護ステーション実習 市役所実習		
	2年		地域・大学 連携 協同学習		病院連携 皮膚排泄 ケア・演習							
	3年				病院連携 摂食嚥下 看護・演習							
	4年											
	5年											
社会参画力	全学年	運動習慣の改善										
	1年	社会人調査							地域・大学 連携 4年発表聴講			
	2年								地域・大学 連携 4年発表聴講			
	3年		講演及び 実技指導						地域・大学 連携 4年発表聴講			
	4年	講演及び 実技指導		運動推進活動				地域・大学 連携				
	5年	プレゼン 講座		地域連携 健康教育		地域連携 健康教育						

※ 実施の時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載